

頻回の記録から 異常が認められなかったことで 患者さんの安心感につながった例

ゆみのハートクリニック渋谷 鮫島 光博 院長

症 例

症 例：30歳代、男性

主 訴：動悸

既往歴：特記事項なし

現病歴：特記事項なし

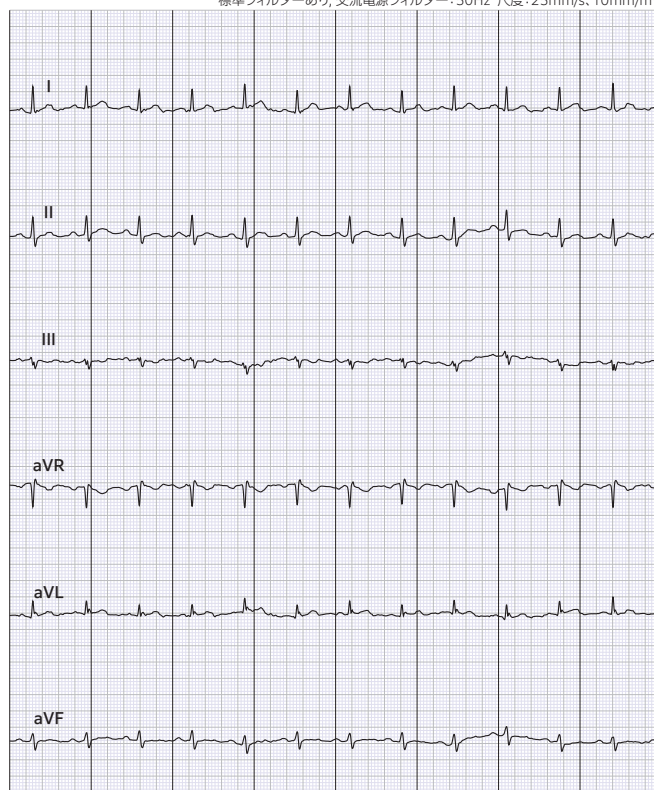
携帯型心電計の使用

患者さんは動悸を主訴に当院を受診し、ホルター心電計にて心室性期外収縮、非持続性心室頻拍が認められた。基礎疾患精査および不整脈治療の検討の末、侵襲的治療は行わずに経過観察の方針となったが、その後、患者さんは「動悸症状が強く出現する」と訴え不安を抱いていた。そこで「オムロンヘルスケア社製携帯型心電計であればホルター心電計でも捉えきれていない不整脈を検出できるかもしれない」と貸し出しを提案したところ、患者さんも積極的に受け入れた。

患者さんには「症状が出たら操作してください」と伝えており、結果として84日間で52回記録された。記録回数が多かったのは、患者さんが若年で、こうした機器に関心が高かったことも関係していると思われる。

解析結果は52回すべてが「正常な洞調律」であったことから、患者さんは安心感を得ている。この患者さんについては引き続き問診や各種検査で、逆流性食道炎などの胸部症状を伴う疾患の有無を探っているところである。

記録日時：2022年11月15日火曜日 午後11:18:54
心拍数：92bpm 所要時間：
標準フィルターあり、交流電源フィルター：50Hz 尺度：25mm/s、10mm/mV



解析結果：正常な洞調律

考 察

症状出現時に、患者さん自身の操作で心電図を計測できる携帯型心電計を使用することで、不整脈も認められないことが確認でき、不安の軽減につながった、モデルケースのような症例である。また、24～48時間のホルター心電計であっても捉えきれない不整脈を検出できる可能性があることから携帯型心電計の有用性を感じている。